

『論理コミュニケーション』
梅嶋 真樹 著、山中 保一 著
仁藤 亜里 著、鈴鹿高校テキスト編集委員会 著

正誤表

正 私は宿題の量を個人ごとに変えてほしいと考える。

誤 私は学校に宿題を減らしてほしいと考える。

該当箇所

17 ページ 「Step4 グループ化」 1-2 行目
「Step5 文章化」 1 行目

27 ページ 「設計図」 最終列 1-2 行目

28 ページ 「設計図」 最終列 1-2 行目

29 ページ 「文章」 内 1 行目

31 ページ 「Step4 グループ化」 1-2 行目
「Step5 文章化」 1 行目

該当ページの修正済 PDF データをご用意しました。
次のページ以降をご覧ください。

次のページから、この設計図のルールを覚えませう。

ルールを覚えるときは、次のページにある白紙の設計図を持ち、そこに自分なりの意見・根拠などを書き込みながら覚えませう。

白紙の設計図を用意できたら、次のページをめくってください。

Step4 グループ化

私は宿題の量を個人ごとに覚えてほしいと考える。
その根拠は大きく分けて3つある。

- 第1に今の宿題は量が多いからだ。
- 宿題をやりきれない
 - 毎日英数国それぞれで宿題が出ており、それにプラスして予習も行う必要があるが全てやることのできるのは、1週間のうち1日くらいだ
 - 宿題は「こなす」印象が強い
 - こなしている感覚で取り組むと頭を主体的に動かしているといえない

- 第2に宿題をする時間が取れないからだ。
- 宿題をする時間が取れない
 - 部活などで家に帰る時間が遅い

- 第3に生徒個々の理解力は違うからだ。
- 生徒一人ひとり宿題を消化できる量が異なる
 - 今は全員同じ量の宿題が出る
 - 生徒の理解力には差がある

Step5 文章化

私	は	宿	題	の	量	を	個	人	ご	と	に	変	え	て	ほ	し	い	と	
考	え	る	。	そ	の	根	拠	は	大	き	く	分	け	て	3	つ	あ	る	。
第	1	に	今	の	宿	題	は	量	が	多	い	か	ら	だ	。	ま	ず	、	
私	は	今	の	宿	題	を	や	り	き	れ	な	い	こ	と	が	多	い	。	具
体	的	に	は	、	毎	日	英	数	国	そ	れ	そ	れ	で	宿	題	が	出	て
お	り	、	そ	れ	に	プ	ラ	ス	し	て	予	習	も	行	う	必	要	が	あ
る	状	態	だ	が	、	全	て	や	る	こ	と	が	で	き	る	の	は	、	1
週	間	の	う	ち	1	日	く	ら	い	だ	。								
ま	た	、	宿	題	は	「	こ	な	す	」	印	象	が	強	い	。	そ	の	
よ	う	に	量	を	こ	な	し	て	い	る	感	覚	で	取	り	組	む	と	頭
を	主	体	的	に	動	か	し	て	い	る	と	い	え	ず	、	役	に	立	っ
て	い	る	の	か	疑	わ	し	い	。										
第	2	に	宿	題	を	す	る	時	間	が	取	れ	な	い	か	ら	だ	。	
私	は	、	部	活	な	ど	で	家	に	帰	る	時	間	が	遅	い	た	め	、
帰	宅	後	に	宿	題	を	行	う	時	間	を	確	保	で	き	て	い	な	い
の	で	あ	る	。															
第	3	に	生	徒	個	々	の	理	解	力	は	違	う	か	ら	だ	。	ま	
ず	、	生	徒	一	人	ひ	と	り	宿	題	を	消	化	で	き	る	量	が	異
な	る	と	考	え	る	。	し	か	し	な	が	ら	、	現	在	は	全	員	同
じ	量	の	宿	題	が	出	て	い	る	の	だ	。	生	徒	の	理	解	力	に
は	差	が	あ	る	の	に	も	か	か	わ	ら	ず	同	じ	も	の	を	解	く
こ	と	は	負	荷	以	外	の	何	物	で	も	な	い	。					

Step4
グループ化

ルール 6 ▶ 今回選んだ意見の根拠をA、B、Cを使って似たものをグループにまとめる

ルール 7 ▶ 意見と根拠をそのまま写す 

ルール 8 ▶ 根拠にグループ名をつける

次に、今回の意見とグループ化した根拠をそれぞれそっくりそのまま写します。「A」グループは2番目の余白に、「B」グループは3番目の余白に、それぞれ写しましょう。
根拠を写すときは、各グループごとに余白を作ることを忘れずに。

<ul style="list-style-type: none"> ● クラスを変えてほしい ● 掃除を無くしてほしい ★ 宿題の量を個人ごとに減らしてほしい ★ 模試を減らしてほしい ● 休みを増やしてほしい ● 制服を変えてほしい ● 勉強以外のいいところを見てほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ● B.宿題をする時間が取れない ● B.部活などで家に帰る時間が遅い ● A.宿題をやりきれない ● A.量が多い ● A.宿題は「こなす」印象が強い ● A.こなしている感覚で取り組むと頭を主体的に動かしているといえない ● A.生徒一人ひとり宿題を消化できる量が異なる ● C.今は全員同じ量の宿題が出る ● C.生徒の理解力には差がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎日英数国それぞれで宿題が出ており、それにプラスして予習も行う必要があるが全てやることのできるのは、1週間のうち1日くらいだ 	<p>私は宿題の量を個人ごとに減らしてほしいと考える。 その根拠は大きく分けて3つある。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 模試などで土日がつぶれる ● 宿題が多いのに模試で休日がなくなると主体的に勉強する時間が少なくなる ● 模試を受けた結果を活用できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 模試の復習はしない ● 成績表をみて一喜一憂するだけ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿題をやる時間が取れない ● 部活などで家に帰る時間が遅い
	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒一人ひとり宿題を消化できる量が異なる ● 今は全員同じ量の宿題が出る ● 生徒の理解力には差がある 		

演習

18-19ページにおいて、意見と根拠をStep4のスペースに写してください。

設計図のルールを覚えよう！

引き続き「学校にいいたいこと」を設計図を使って書いていきます。

ルールを覚えた後は、18-19ページにある設計図にグループ名をつけ、文章にしてください。

Step4 グループ化

ルール6 ▶ 今回選んだ意見の根拠をA、B、Cを使い、似たものをグループにまとめる

ルール7 ▶ 意見と根拠をそのまま写す

ルール8 ▶ 根拠にグループ名をつける

先ほどグループ化した根拠の、それぞれのグループにグループ名をつけます。いわゆる総称です。分けた際に「似ている」と考えた観点をグループ名にすると上手くいきます。

<ul style="list-style-type: none"> ● クラスを変えてほしい ● 掃除を無くしてほしい ★ 宿題の量を個人ごとに減らしてほしい ★ 模試を減らしてほしい ● 休みを増やしてほしい ● 制服を変えてほしい ● 勉強以外のいいところを見たい 	<ul style="list-style-type: none"> ● B.宿題をする時間が取れない ● B.部活などで家に帰る時間が遅い ● A.宿題をやりきれない ● A.量が多い ● A.宿題は「こなす」印象が強い ● A.こなしている感覚で取り組むと頭を主体的に動かしているといえない ● A.生徒一人ひとり宿題を消化できる量が異なる ● C.今は全員同じ量の宿題が出る ● C.生徒の理解力には差がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎日英数国それぞれで宿題が出ており、それにプラスして予習も行う必要があるが全てやることができるのは、1週間のうち1日くらいだ 	<p>私は宿題の量を個人ごとに減らしてほしいと考える。その根拠は大きく分けて3つある。</p> <p>第1に今の宿題は量が多いからだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 宿題をやりきれない ● 毎日英数国それぞれで宿題が出ており、それにプラスして予習も行う必要があるが全てやることができるのは、1週間のうち1日くらいだ ● 宿題は「こなす」印象が強い ● こなしている感覚で取り組むと頭を主体的に動かしているといえない
	<ul style="list-style-type: none"> ● 模試などで土日がつぶれる ● 宿題が多いのに模試で休日がなくなると主体的に勉強する時間が少なくなる ● 模試を受けた結果を活用できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年の休日の約半分は模試の実施で登校している ● 模試の復習はしない ● 成績表をみて一喜一憂するだけ 	<p>第2に宿題をする時間が取れないからだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 宿題をする時間が取れない ● 部活などで家に帰る時間が遅い <p>第3に生徒個々の理解力は違うからだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒一人ひとり宿題を消化できる量が異なる ● 今は全員同じ量の宿題が出る ● 生徒の理解力には差がある

演習

18-19ページにおいて、先ほど写した根拠にグループ名をつけてください。

Step5
文章**ルール 9** ▶ Step4の部分を、接続詞を加えながら
つなげて文章にする。

完成した設計図の右端のスペースに書かれている、文章の要素をそのままつなげて文章にすれば、あっというまに論理的な文章となります。

私	は	宿	題	の	量	を	個	人	ご	と	に	変	え	て	ほ	し	い	と	考	え	る	。	そ	
の	根	拠	は	大	き	く	分	け	て	3	つ	あ	る	。										
第	1	に	今	の	宿	題	は	量	が	多	い	か	ら	だ	。	ま	ず	、	私	は	今	の	宿	
題	を	や	り	き	れ	な	い	こ	と	が	多	い	。	具	体	的	に	は	、	毎	日	英	数	国
そ	れ	ぞ	ろ	で	宿	題	が	出	て	お	り	、	そ	れ	に	プ	ラ	ス	し	て	予	習	も	行
う	必	要	が	あ	る	状	態	だ	が	、	全	て	や	る	こ	と	が	で	き	る	の	は	、	1
週	間	の	う	ち	1	日	く	ら	い	だ	。													
ま	た	、	宿	題	は	「	こ	な	す	」	印	象	が	強	い	。	そ	の	よ	う	に	量	を	
こ	な	し	て	い	る	感	覚	で	取	り	組	む	と	頭	を	主	体	的	に	動	か	し	て	い
る	と	い	え	ず	、	役	に	立	っ	て	い	る	の	か	疑	わ	し	い	。					
第	2	に	宿	題	を	す	る	時	間	が	取	れ	な	い	か	ら	だ	。	私	は	、	部	な	
ど	で	家	に	帰	る	時	間	が	遅	い	た	め	、	帰	宅	後	に	宿	題	を	行	う	時	間
を	確	保	で	き	て	い	な	い	の	で	あ	る	。											
第	3	に	生	徒	個	々	の	理	解	力	は	違	う	か	ら	だ	。	ま	ず	、	生	徒	一	
人	ひ	と	り	宿	題	を	消	化	で	き	る	量	が	異	な	る	と	考	え	る	。	し	か	し
な	が	ら	、	現	在	は	全	員	同	じ	量	の	宿	題	が	出	て	い	る	の	だ	。	生	徒
の	理	解	力	に	は	差	が	あ	る	の	に	も	か	か	わ	ら	ず	同	じ	も	の	を	解	く
こ	と	は	負	荷	以	外	の	何	物	で	も	な	い	。										

Step4

グループ

ルール6▶ 今回選んだ意見の根拠をA.B.Cを使って似たものをグループにまとめる

ルール7▶ 意見と根拠をそのまま写す

ルール8▶ 根拠にグループ名をつける

Step5

文章

ルール9▶ Step4の部分を、接続詞を加えながらつなげて文章にする

私は宿題の量を個人ごとに変えてほしいと考える。その根拠は大きく分けて3つある。

第1に今の宿題は量が多いからだ。

- 宿題をやりきれない
- 毎日英数国それぞれで宿題が出ており、それにプラスして予習も行う必要があるが全てやることができるのは、1週間のうち1日くらいだ
- 宿題は「こなす」印象が強い
- こなしている感覚で取り組むと頭を主体的に動かしているといえない

第2に宿題をする時間が取れないからだ。

- 宿題をする時間が取れない
- 部活などで家に帰る時間が遅い

第3に生徒個々の理解力は違うからだ。

- 生徒一人ひとり宿題を消化できる量が異なる
- 今は全員同じ量の宿題が出る
- 生徒の理解力には差がある

私	は	宿	題	の	量	を	個	人	ご	と	に	変	え	て	ほ	し	い	と	
考	え	る	。	そ	の	根	拠	は	大	き	く	分	け	て	3	つ	あ	る	。
第	1	に	今	の	宿	題	は	量	が	多	い	か	ら	だ	。	ま	ず	、	
私	は	今	の	宿	題	を	や	り	き	れ	な	い	こ	と	が	多	い	。	具
体	的	に	は	、	毎	日	英	数	国	そ	れ	そ	れ	で	宿	題	が	出	
て	お	り	、	そ	れ	に	プ	ラ	ス	し	て	予	習	も	行	う	必	要	が
あ	る	状	態	だ	が	、	全	て	や	る	こ	と	が	で	き	る	の	は	、
1	週	間	の	う	ち	1	日	く	ら	い	だ	。							
ま	た	、	宿	題	は	「	こ	な	す	」	印	象	が	強	い	。	そ	の	
よ	う	に	量	を	こ	な	し	て	い	る	感	覚	で	取	り	組	む	と	頭
を	主	体	的	に	動	か	し	て	い	る	と	い	え	ず	、	役	に	立	っ
て	い	る	の	か	疑	わ	し	い	。										
第	2	に	宿	題	を	す	る	時	間	が	取	れ	な	い	か	ら	だ	。	
私	は	、	部	活	な	ど	で	家	に	帰	る	時	間	が	遅	い	た	め	、
帰	宅	後	に	宿	題	を	行	う	時	間	を	確	保	で	き	て	い	な	い
の	で	あ	る	。															
第	3	に	生	徒	個	々	の	理	解	力	は	違	う	か	ら	だ	。	ま	
ず	、	生	徒	一	人	ひ	と	り	宿	題	を	消	化	で	き	る	量	が	異
な	る	と	考	え	る	。	し	か	し	な	が	ら	、	現	在	は	全	員	同
じ	量	の	宿	題	が	出	て	い	る	の	だ	。	生	徒	の	理	解	力	に
は	差	が	あ	る	の	に	も	か	か	わ	ら	ず	同	じ	の	物	を	解	く
こ	と	は	負	荷	以	外	の	何	物	で	も	な	い	。					